エンパワーするNGO YWCA
京都YWCA
11
2012

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

京都YWCA国際委員会 多文化理解プログラム「覗いてみよう、フィリピン！」

京都YWCAの国際委員会では、他の国々を知るきっかけとして、様々な国の方から話を聞いたり、料理や文化を体験したりする「多文化理解プログラム」を行っている。昨年度は日本の習慣で不思議だと感じていることを、韓国、ベトナム、ウイグル自治区、ベネズエラの方と語る会を開いたり、世界の習慣について知ろうと、イギリス、シリア、フィリピンの方から話を聞いたりした。

京都市の外国人登録者数で韓国・朝鮮、中国の次に多いのがフィリピンである。今年度はそのフィリピンのことをもっと知り感じてみようと、9月29日（土）、フィリピンについての3回シリーズの第1回目「覗いてみよう、フィリピン」を開催した。ゲストは京都YWCAの英会話講師で、来日4年のマイケル・ヤップさん。用意していただいた映像を交えて、フィリピンの話をうかがった。

ダバオの産業と日本人との関わり

マイケルさんの故郷、ミンダナオ島ダバオは約150万の人口、アポ山という遠望できる山があること、IT産業と観光が中心であることなど京都に似ている点が多いそうである。バナナがマニラ産というのは日本人の誤解だそうで、マニラにバナナのプランテーションはなく、ダバオ等で生産されている。フィリピンの「フルーツ・バスケット」と呼ばれているなど自然に恵まれたダバオだが、興味深いことに、最初に農業を始めたのは日本人移住者であり、また1903年に実業家太田恭三郎によってマニラ麻、材木などが取引されるようになり、日本人町“リトル・ジャパン”ができたということである。

ゲストのマイケル・ヤップさん

他民族支配の歴史

日常ではタガログ語と他言語混合のフィリピノ語が使われ、英語はできる人もそうでない人もいるそうだ。教育は小学校7年、中学校3年、高校3年が義務教育であるが、16～19世紀までスペインの統治下にあり、その後はアメリカに、戦時中は日本に支配された。また古くから中国人も多く移住していた歴史があり、フィリピン人は“adapt（順応）”してきたという言葉が心に残った。

休憩でいただいたフィリピンのお菓子、ギナタンはココナッツミルクでさつまいもとタピオカを煮て、白玉団子とバナナを入れたスイーツ。最後にフィリピノ語とセブ語の簡単な日常語を習った。笑いの絶えないひとときを過ごし、参加者それぞれにとってフィリピンが身近になったのではと思う。

フィリピンの概要：関西空港からマニラまで約3時間50分。7,107の島からできている。人口は9,700万人、加えて海外在住のフィリピン人は1,200万人。主な3地域の中心都市は、ルソン島はマニラ、ヴィサヤス諸島はセブ、ミンダナオ島はダバオ。

（国際委員会　篠田　茜）

―― YWCAのなかまが見た世界 ――

ベルギーの多言語教育事情

ベルギーの公用語は仏語、蘭（オランダ）語、独（ドイツ）語の三言語で、私が暮らすブリュッセル市は仏、蘭語の二言語併用です。仏、蘭語話者をはじめ、EU（ヨーロッパ連合）機関がたくさんあることから、ヨーロッパ諸国からの在住者、そして世界中からの移民、難民も多く、街を歩くといろんな言語を耳にします。

そんなブリュッセルでは、「多言語教育・育児」について、自然と考えさせられる環境にあります。私も保育園の園長先生のアドバイスや保健所の冊子で「親一人につき一言語で子ども対応」を教わりました。

市には、公立では仏、蘭語の教育機関があり、5歳になる娘は蘭語の幼稚園に通っています。両親は、仏語話者はもちろん、英語（リベリア）、フィリピン語、スペイン語、クロアチア語、アラビア語話者などです。

幼稚園の送り迎えでは、子どもたちが、様々な言語で両親と話す声が聞こえてきます。たいていは、それぞれの親が、母語で子どもたちに話かけています。ですから、私も気兼ねなく、大きな声で、私が一番話しやすい日本語で、娘と会話します。「どんな言語を話してもよい、何でもあり」という雰囲気が、私に自信をもって日本語を話させてくれます。「親一人につき一言語」の対応が実現できる環境です。

私たちの家庭で使う言語は、蘭語と日本語です。娘は私とは日本語、父親とは蘭語で話します。ブリュッセルでは、二言語はもちろん、三言語、四言語を聞きながら生活する子どもたちも少なくありません。

多言語教育・育児をしながら、お互いの言語を自然と尊重し、将来はお互いの文化も認めあって暮らしていける社会になってほしいと希望を持ち、娘の幼稚園とも関わって過ごしているこのごろです。

（上羽郁子）

娘とクラスのお友達

オススメです！

ルワンダ ジェノサイドから生まれて

ジョナサン・トーゴヴニク（写真・インタビュー）、竹内万里子（訳）
赤々舎（AKAAKA）2010年発行

「人々は私たちを、民兵の性欲の食べ残しなのだと言います。そのことを考えるたびに、私は自己嫌悪に陥ります」。「ツチとして生まれたというだけのことで、私は苦しんでいるのです」。

1994年、ルワンダでは100日間で約80万の人々が殺された。冒頭の言葉は、この本で紹介されている女性たちの写真に添えられていたもの。この本では、30人のツチ女性の写真とインタビューが掲載されている。女性の傍らには、必ず子どもが映っている。いずれも、フツ族の民兵による性暴力の結果、生まれてきた子ども達。その多くがHIVに感染しており、ルワンダには、このような子どもが2万人はいるという。

ツチ女性たちに起こったことを、彼女たちが望むように理解するというのは難しい。けれども、「ルワンダの大虐殺の中で起きた性暴力」と一括りに片付けることはもうできない。みなさんもぜひこの本を手に取って、写真の中の一人ひとりに向き合い、感じたことを誰かに伝えてほしい。

（福嶋由里子）

京都YWCAにはこんな素敵な講師がいます。いっしょに学びませんか？

英語講師
モレノ・アンヘラさん

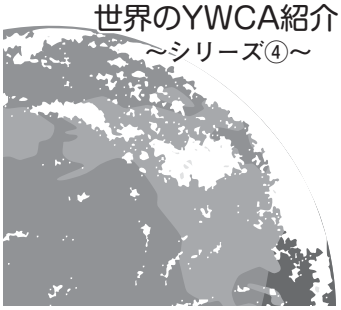
私はベネズエラ人ですが、10年ほどアメリカに住んで美術学校を卒業しました。ベネズエラの首都カラカスでアートとデザインのフリーランサーとして働きながら、日本語を学びました。日本政府の奨学金制度に応募して受かった私は、京都精華大学で日本の漫画を研究するため、2007年に京都にやってきました。

私が日本に出会ったきっかけは日本のアニメです。私のお気に入りは「聖闘士星矢」、「ドラゴンボール」、「るろうに剣心」などです。日本の漫画やアニメはラテンアメリカではとても人気があり、毎年カラカスでアニメ大会やコスプレのイベントがあります。私の夢はいつか漫画家になって自分の漫画を日本で出版することです。

2009年から京都YWCAで英語を教えていますが、教えることも大好きです。英語で文化やアートや漫画について話すのを楽しんでいます。アートが好きでアニメや漫画も好きな方なら、是非YWCAにいらしてください。一緒に語り合いましょう！

シンガポールYWCA

世界のYWCA紹介 ～シリーズ④～



今や一人当たりのGDPはアジア第一であると言われているシンガポール、その中でYWCAはどのような活動を行っているのか。国際委員会ではシンガポールの歴史や文化、政治、言語など各分野について、またホテルや幼稚園を経営し、様々な活動を活発に行っているシンガポールYWCAについて勉強会を行った。

シンガポールはその地理的重要性のために様々な国から侵攻されたり植民地となったりした歴史を持つ。しかし多くの困難を乗り越え1965年にマレーシア連邦から分離独立し、現在の発展を成し遂げた。国民は主に中国系、マレー系、インド系の複合民族で構成されている。

女性や社会的弱者のため、多様な活動を展開

シンガポールYWCAは、1875年に英国の宣教師ミス・ソフィア・クックにより、海外から来た若い中国人女性たちの自己改善クラスを作る目的で設立された。それ以後YWCAは、働く女性たちのために宿泊所を作り、働く女性の地位向上を主張し、非合法定住者と働く女性の子どもたちのために保育所を作った。また外国から働きにやって来る貧しい女性たちのための住まいを作る活動の先頭に立ち、一方お年寄りのためのデイセンターを始めるなど、常に女性と子どもたちや社会的弱者の生活の向上と豊かさを追求するパイオニアとなってきた。

そして現在、YWCAの活動は多岐に亘っている。低収入家庭の子どもへの夕食配達サービス。貧しく体が弱く閉じこもりがちな老人への昼食配達サービス。シニアの人たちがウィークデイにいつでも立ち寄って、歌ったり体操をしたりゲームをしたりできるプログラム。軽度の学習障害の子どもを早期に発見し、普通学級に戻れるように専門家がチームを組んでサポートする試みなどなど。エネルギッシュな活動に私たちも元気を貰えた気持ちがする。

ただ筆者がYWCAを訪れ高齢者の方たちと一緒に歌や体操を楽しんだとき、日本語を話される方が何人かおられた。かつて日本の占領下にあったことの確かな痕跡と感じて複雑な思いを持った。

(国際委員会 小寺　敬子)

シリーズ 福島から京都に避難して ❹

子どもの言葉にドキリ

西山　祐子

避難してから１年７か月が経った。震災時に２歳だった娘も３歳になり４月から幼稚園に通っている。あの時「ママ」しか言えなかった娘が自分の伝えたいことをだいぶ表現できるようになり、時折思いもよらない言葉に驚くことがある。

娘に原発のことや放射能のことを話したことはないのに、２歳半の時には草の上に座り草をちぎって空に投げながら「放射能の雨が降る。福島には放射能の雨が降っている」と言い私をドキッとさせた。福島のことを話すと「福島は放射能が降って危ないから、京都に住むの」と言い切る娘。なにかの拍子に「原発反対」「原発反対」とリズムに合わせながら叫ぶ娘。

「原発に石を投げて壊すの。福島は原発で草に触れなくなってしまったからね」と突然話し出す娘。「壊すのではなくて、無くしたいの？ じゃあ、日本の総理大臣になれば？」と言うと「ママがなって」と返す娘この娘の話の真意は何なのか、どこまでわかっているのかわからないけれど、放射性物質が降り積もり土や草や今まで触れた物が触れなくなってしまったことがわかる娘。この娘がこれからどのように生き、福島で起きたことがどのように影響するのか、ふと思う時がある。

次世代への大人の責任を思う

大飯原発が再開し、停止中の大間原発工事が再開した。また地震が起きて福島と同じことが起きたら。。。福島で子どもたちは外で思いきり遊べない。今後長期にわたり甲状腺検査を受け続けなければならない。何を食べようか、マスクをかけようか、風が強いから外出を控えようか――放射能と向き合いながら生きなければならない生活。福島県民の16万人が避難生活を続け、補償のこと、健康管理のこと、今後の生活のことが何ひとつ決まっていないのに再稼働や原発建設工事再開が始まるこの国。

娘が成人した時に、大人はそしてこの国はどう映るのだろう。福島のことを置き去りにして同じことを繰り返す私達大人に失望しないだろうか。自分の命が子どもや孫の代まで永久につながっていくことを思えば、今何をしなければならないのかがわかるはずなのに。。。娘を守るために京都まできた私、私ができることは、変わらなくても叫び続ける――娘の誇れる母親でいたいと思う。

お知らせ

◆京都YWCAカフェ「うらら か ふぇ」

カフェの名前が決まりました！

「麗(うらら)か」の**か**と「かふぇ」の**か**を重ね合わせ、心が晴れ晴れとする麗かなカフェを目指して、「うらら **か** ふぇ」と命名しました。第１・３の土曜 11:00-14:00、スリフトショップの日に合せてオープンしています。心を込めた手作りのケーキやお菓子、ネルドリップで入れたコーヒーをお楽しみください！

きっと「うららか」な気持ちになって頂けるのではないでしょうか。ケータリングもお申し付けください。ご来店をお待ちしています！

◆京都 YWCAドミトリー マンスリー利用者募集

2K の月単位の利用者を募集しています！

短期研修・研究の際や、滞在型の観光に最適です。地下鉄丸太町駅から徒歩８分の緑豊かな御所のそばにあり、静かな環境です。女性単身者あるいは女性２名でのご利用が可能です。詳細はお問合せください。

今後のプログラム

◆連続講座「子どもの育ちを支えるあなたのために」

発達に課題を抱えている子どもと関わる親や支援者を対象に、知識編から身体ほぐしなどを含めたワークショップ等、日常で実践できる支援法を学ぶ連続講座を開催します。

①11 月 15 日（木）10:30-12:30「心の重荷をおろしましょう」
　ゲスト：相澤雅文（京都教育大学特別支援教育臨床実践センター教授）
②12 月 14 日（金）13:00-15:00「脳とこころの子育て」
　講師：成田奈緒子（文教大学教授）
③2013 年 1 月 21 日（月）10:30-12:30「コミュニケーションとしてのダンス」
　講師：黒子沙菜恵（ダンサー・振付家）
④2 月 18 日（月）10:30-12:30「コモンセンスペアレンティングで楽チン子育てを」
　講師：森脇和美（コモンセンスペアレンティングトレーナー、専門里親）
⑤3 月 4 日（月）10:30-12:30「子どもの成長に拍手、がんばった私に拍手」
　ゲスト：室紀子（京都保育福祉専門学院・京都光華女子大学講師）

会場：京都 YWCA　※②回目のみ会場は室町教会
受講費：1 名 550 円 / 回（要申込）　②③④保育有（有料・要申込）詳細は事務所へお問い合わせください。

◆ YMCA/YWCA 合同祈祷週集会「在日フィリピン人女性の 20 年」

11 月 17 日（土）17:30 軽食　18:00 プログラムスタート
場所：京都 YWCA　参加費：500 円

◆「内部被曝を知る」連続講座

①2012 年 12 月 8 日（土）14：00-16：00
　講師：守田敏也（フリージャーナリスト）
　・「内部被曝とは何か」
　・3.11 以降の福島、日本全体の「被爆」の危険性について、脱原発と被爆のリスクを減らす私たちのこれからの暮らしについて。
②2013 年 1 月 12 日（土）14：00-16：00
　講師：山崎知行（医師）
　・月 1 回の福島での「子ども健康相談」を担当して。

◆小学生対象ドーナッツ・プログラム「まるごとアジア～モンゴル編」

日時：2012 年 12 月 16 日（日）13:00-16:00
場所：京都 YWCA
内容：モンゴルってどんな国？モンゴルからの留学生からお話を聞き、モンゴルのおやつを作って食べます。
　京都 YWCA 親子ライブラリーによる読み語りもあり、盛りだくさん！
対象：小学生
定員：15 名程度　要申込
参加費：500 円（お菓子付）

ご寄付ありがとうございました。

敬称略　（2012 年 8 月 1 日～ 2012 年 9 月 30 日）

＊一般寄付
神門佐千子、山本知恵、宮武美知子、児玉寿子、野崎泰子

＊指定寄付
活動総務：三市 Y 交流会参加者有志
東北地方太平洋沖地震被災者支援：尾崎、田中村子、丸山、木戸さやか、安藤いづみ、池上信子、筒井奈都子
親・子育ち委員会：別所加恵、上田理恵子
APT：長谷川尚平、安藤いづみ、池上信子、日本キリスト教団多度津教会婦人会
国際：川崎愛、宮武美知子、神門佐千子、池上信子、筒井奈都子
平和：平和委員会有志
カフェ：宮武美知子、カフェ委員会有志
ミニホール・キッチン改修募金：平野冨希、上村兪巳子、木戸さやか、池上信子
賛助費：佐伯昌和、森明子、北村保子、清水義

9月・10月／理事会報告

●会館（宿舎）：同志社留学生　9月からの入居者12名が来日。
●生活者としての外国人のための日本語事業
　①日本語学習支援ボランティア入門講座：2012年9/26（水）～全12回
　②子育てのための日本語教室　＊11月から月曜日と水曜日で開講予定。
　③地域の生活者としての外国人の日本語普及の教材開発
●APT：京都市国際交流協会「OPEN DAY」に出店（11/3）、健康フェスタに協力（11/17）
●平成24年度京都府配偶者等からの暴力に対する啓発週間へ賛同
●2013年度の京都YWCA設立「90周年」について意見交換

ＫＹＯＴＯ　ＹＷＣＡ　No.511
2012 年 11 月号（11 月 1 日発行）
発行人　上村兪巳子
発行所　一般財団法人京都 YWCA
　京都市上京区室町通出水上ル
電　話　(075) 431－0351　FAX (075) 431－0352
e-mail　office@kyoto.ywca.or.jp
ＵＲＬ　http://kyoto.ywca.or.jp
郵便振替　01080－9－1566
口座名義　(財) 京都 YWCA
定　価　50 円